

建屋周辺の地下水位、汚染水発生量の状況

2026年 7月 30日

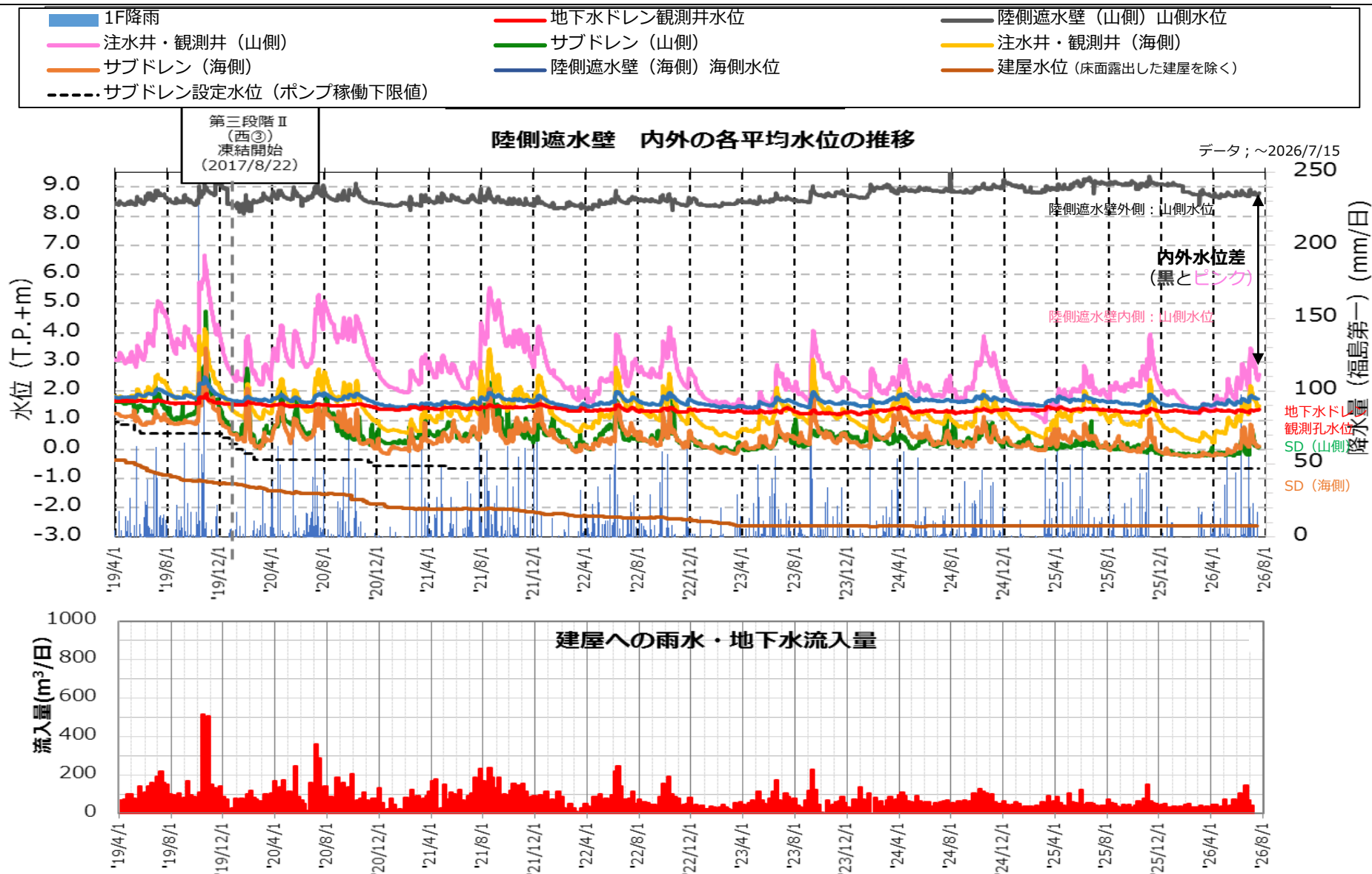
TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

1. 建屋周辺の地下水位、サブドレン等のくみ上げ量について	P2～3
2. 汚染水発生量の推移	P4
参考（維持管理運転試験的見直しについて含む）	P5～20

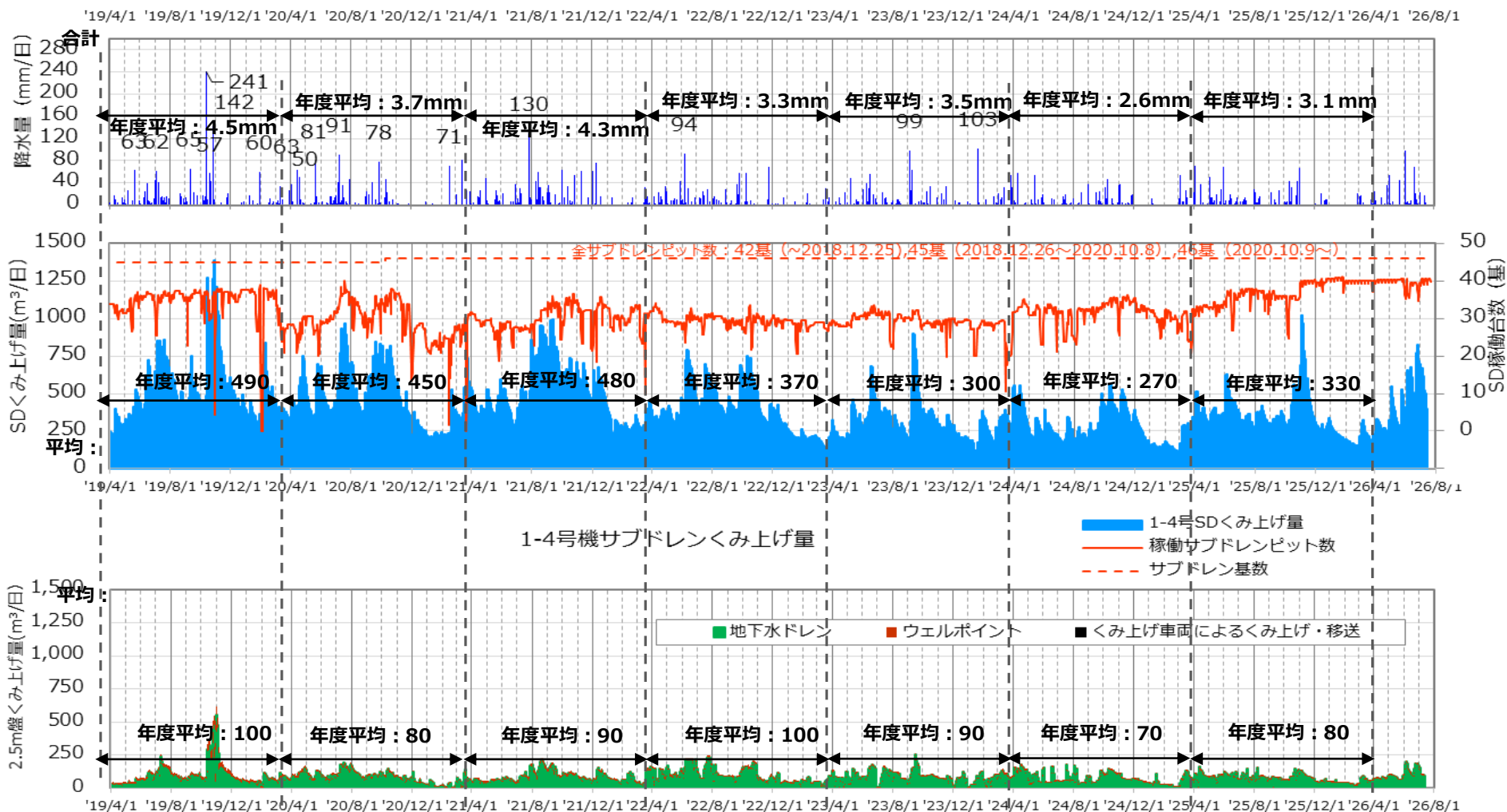
1-1. 建屋周辺の地下水位の状況

- 陸側遮水壁内側エリアの地下水位は山側では降雨による変動があるものの、内外水位差は確保した状態が維持されている
- 地下水ドレン観測井水位は約T.P.+1.4mであり、地表面から十分に下回っている（地表面高さ T.P.+2.5m）



1-2. サブドレン・護岸エリアのくみ上げ量の推移

- 1-4号機サブドレンは、降水量に応じて、くみ上げ量が変動している状況である
- T.P.+2.5m盤くみ上げ量は、T.P.+2.5m盤エリアのフェーシングが完了しており、安定的なくみ上げ量で推移している状況である

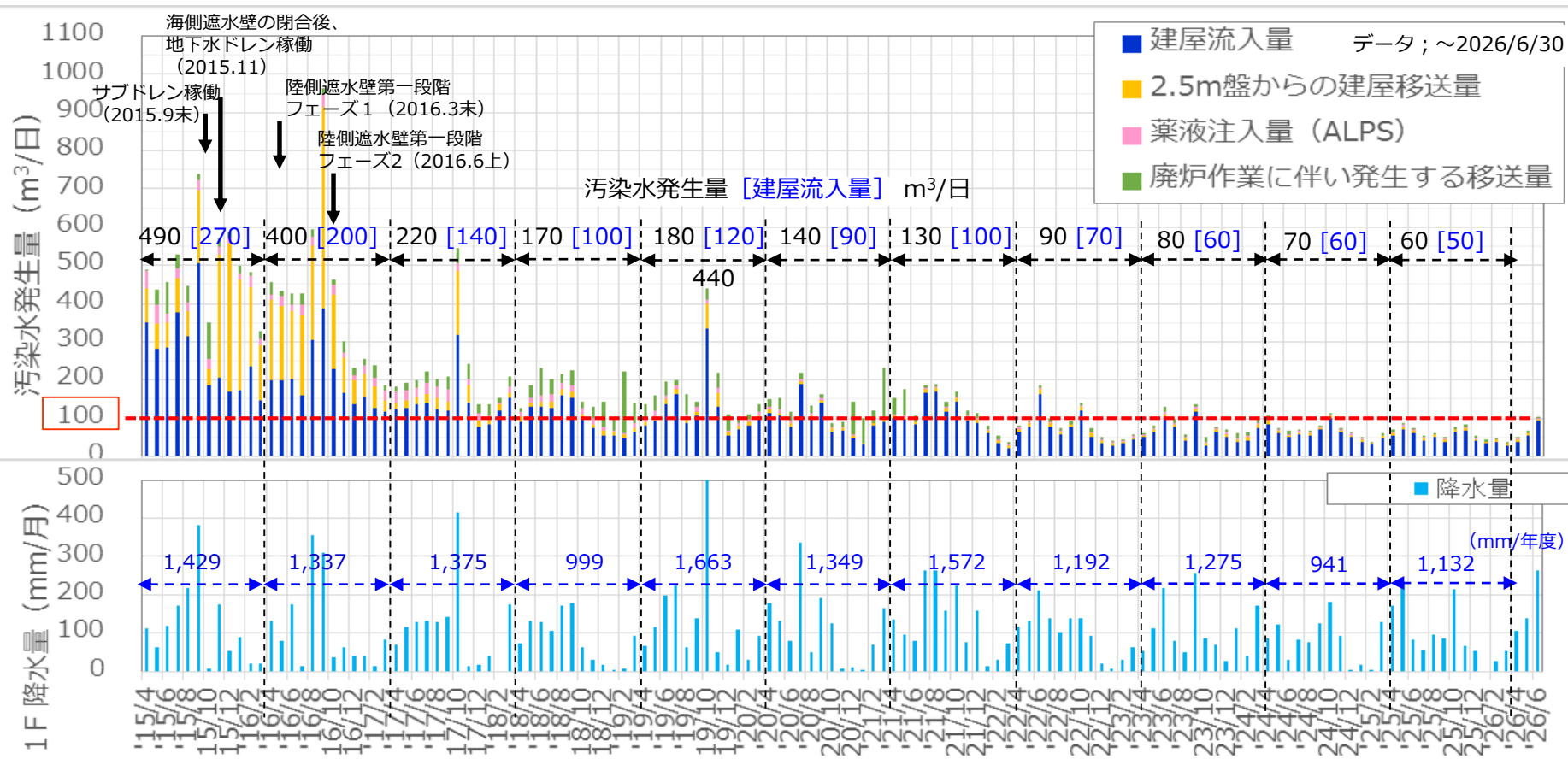


データ; 2026/7/15

※年度平均値は、降水量を除き10m³単位で四捨五入

2. 汚染水発生量の推移

- 2025年度は、汚染水発生量：約60m³/日、降雨量：1,132mmであり、平均的な降雨量（約1,470mm）と比較すると約350mm少ないが、平均的な降雨量相当だったとしても、汚染水発生量は約70m³/日程度と評価される。
- 2026年6月は降雨量が263mmであり、建屋流入量は約90m³/日、汚染水発生量は約100m³/日だった。



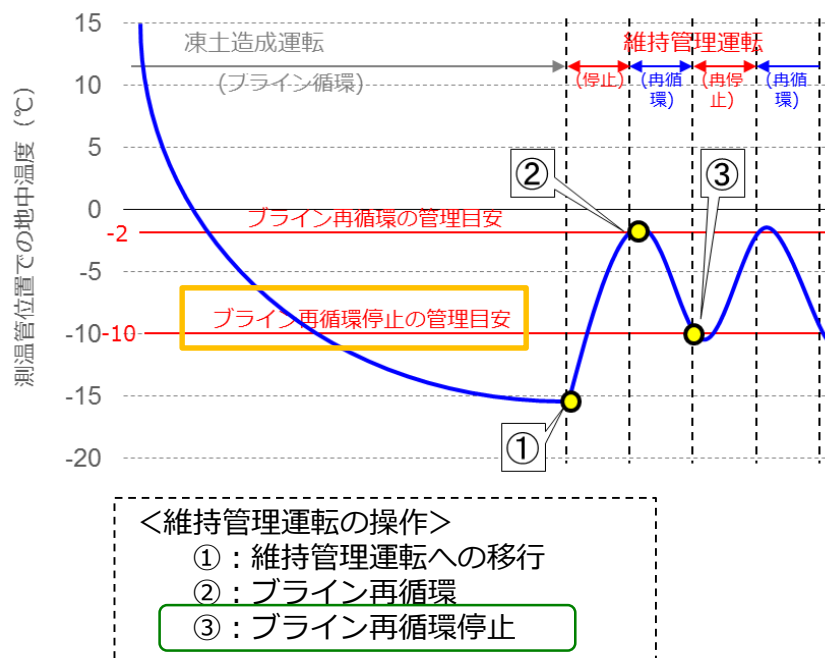
注) 2017.1までの汚染水発生量（貯蔵量増加量）は、建屋滞留水増減量（集中ラド含む）と各タンク貯蔵増減量より算出しており、気温変動の影響が大きいいため、2017.2以降は上表の凡例に示す発生量の内訳を積み上げて算出する方法に見直している。よって、2017.1までの発生量の内訳は参考値である。

【参考 1】 地中温度分布
(維持管理運転試験的見直しについて含)

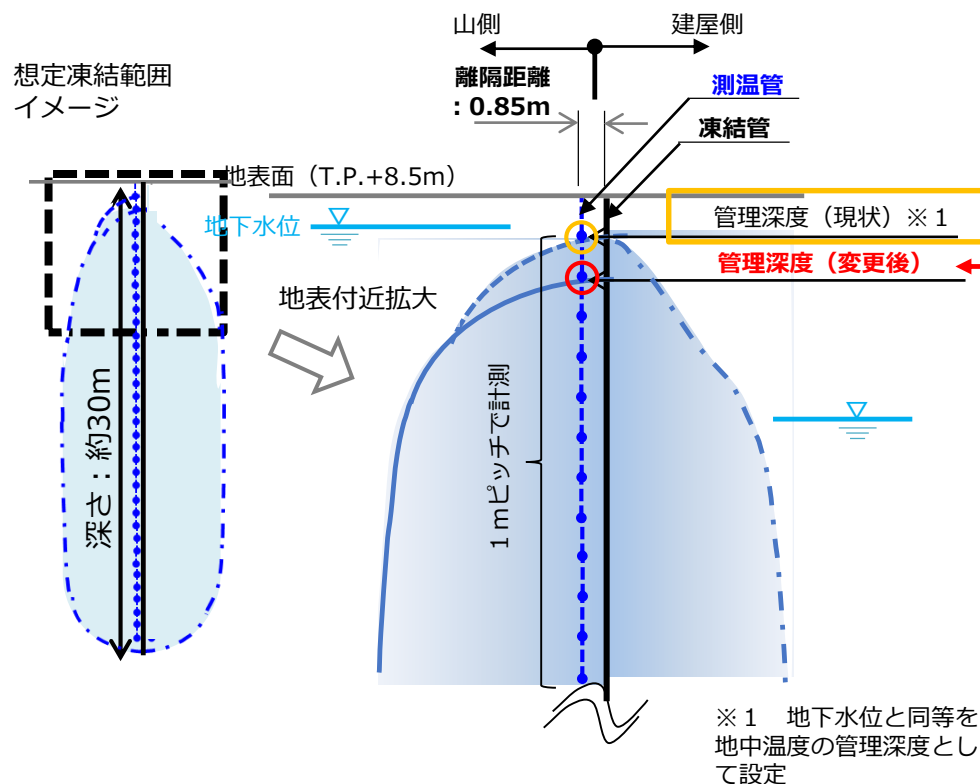
【参考】維持管理運転における地中温度管理深度等の試験的見直しについて

- 陸側遮水壁（凍土壁）の維持管理運転については、凍土壁の過剰成長の抑制を目的として、建設当初の2017年度から実施している。
- 凍土壁は、1～4号機の建屋を取り囲むように設置されているが、維持管理運転は、区間ごと（ヘッダー管ごとに49区間）に、地下水位以下の地中温度を管理対象として、過剰に冷却しすぎないように、ブラインの供給・停止を繰り返し行うものである。
- 3～4号機において、建屋間端部ギャップ止水が完了したことを受けて、ブライン循環の停止率が低い4号機西側区間で、地中温度を管理する深度（管理深度）を地下水位以下の深度に、ブライン循環再停止温度を従来より高く見直したりすることで、更なる凍土壁の成長抑制のための運転を試験的に実施する。
- なお、試験的な見直しにより、近傍のサブドレン汲み上げ量等への影響が確認される場合は、管理深度等を元に戻すなど実施することを計画している。

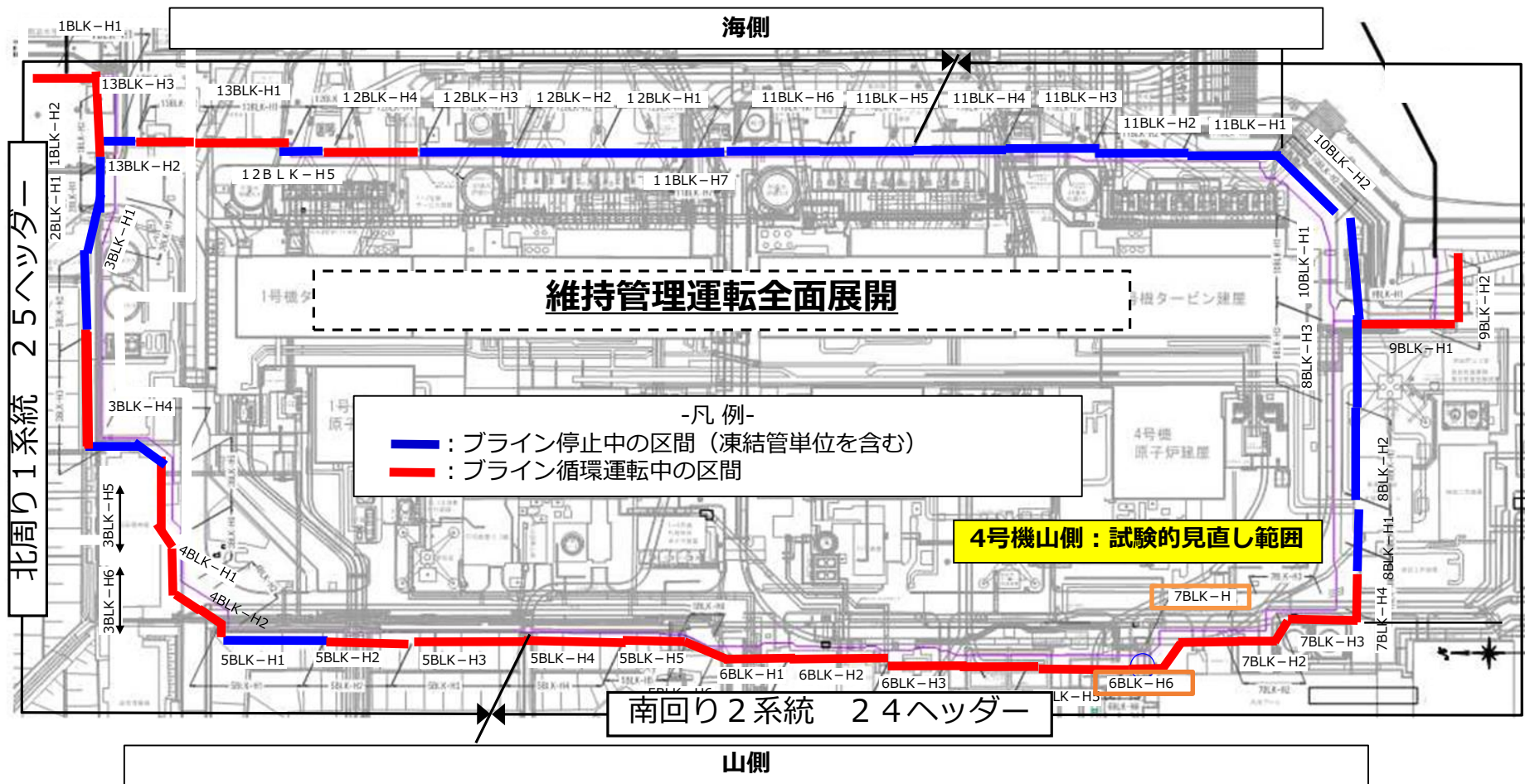
【維持管理運転：地下水位以下の地中温度で管理】



※ブライン循環再停止の管理目安は、運転状況を踏まえて、設定していく



- 維持管理運転対象全49ヘッダー管（北回り1系統25ヘッダー、南回り2系統24ヘッダーのうち22ヘッダー管（北側4、東側12、南側5、西側1）にてブライン停止中。



維持管理運転開始時期：全範囲（49ヘッダー）

2017. 5.22～ 北側、南側から開始

2017.11.13～ 海側

2018. 3.14～ 山側

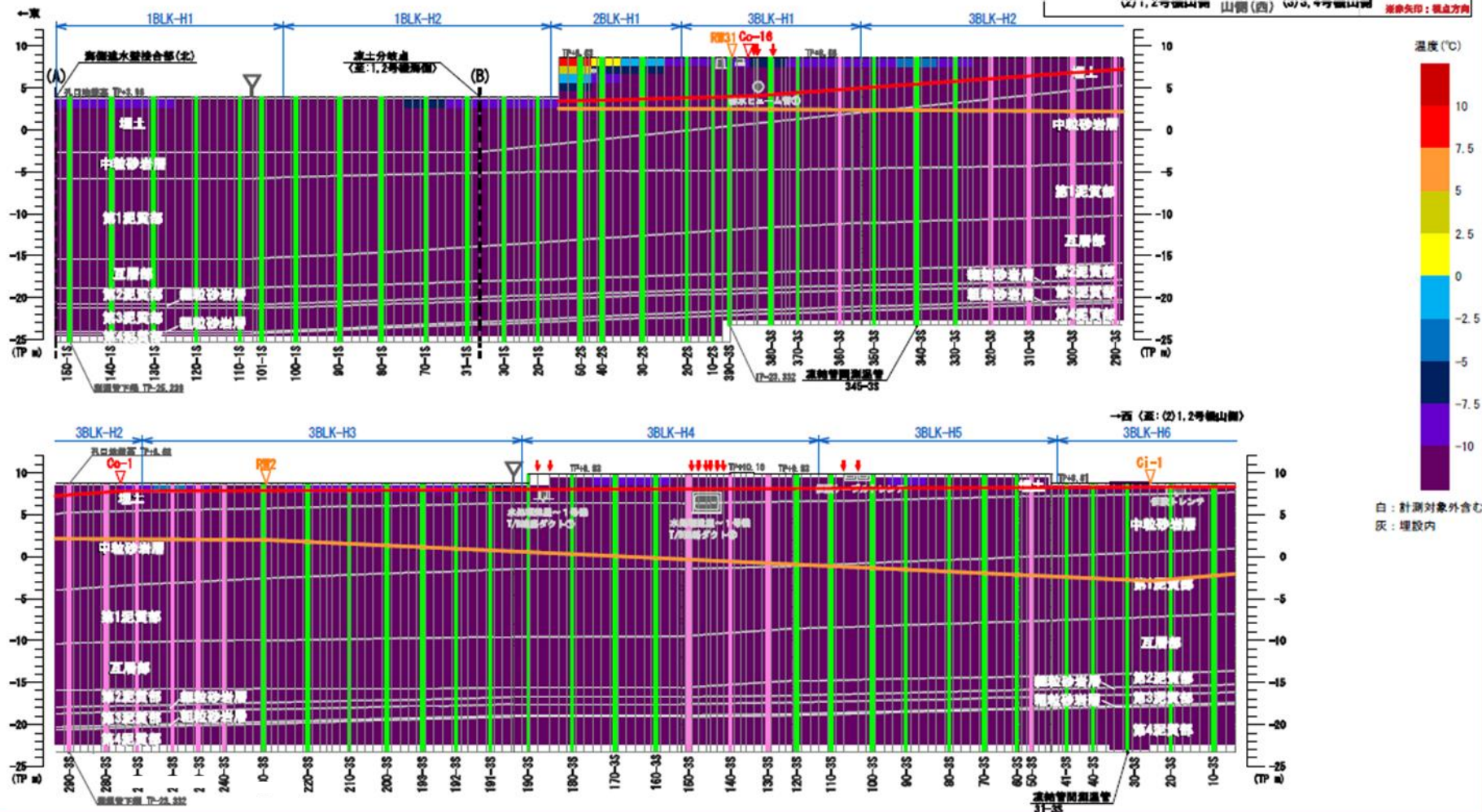
【試験的見直し範囲の表記】

□ 地中温度の管理深度等を変更を計画している範囲

■ 地中温度分布図

(1) 1号機北側（北側から望む）

（温度は7/21 7:00時点のデータ）



白：計測対象外含む
灰：埋設内

10

■ 地中温度分布図

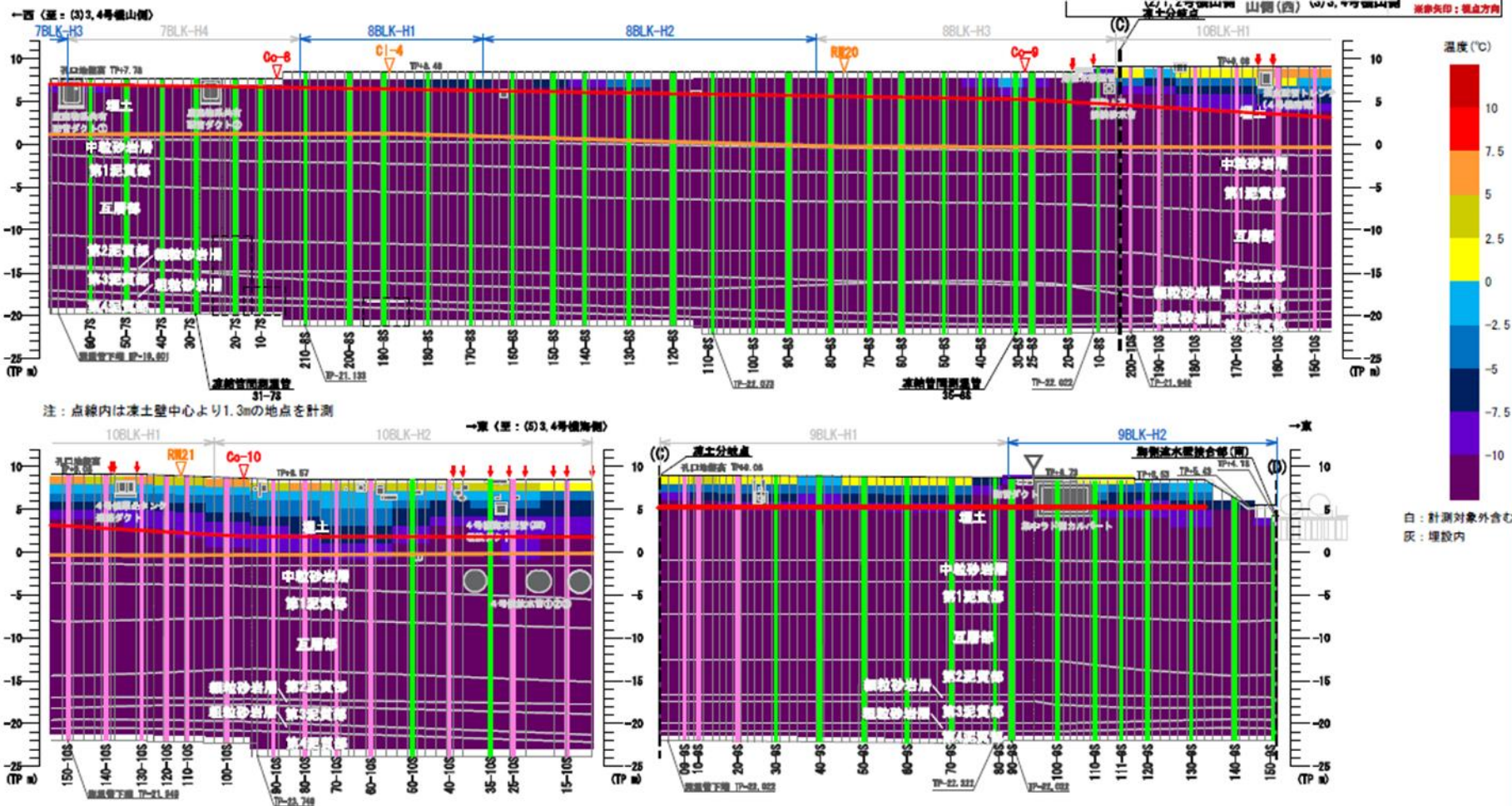
(4) 4号機南側（南側から望む）

（温度は7/21 7:00時点のデータ）

凡 例

- : 測温管（凍土ライン外側）
- : 測温管（凍土ライン内側）
- ↓ : 複列部凍結管
- : 凍土壁外側水位
- : 凍土壁内側水位
- ▽ : 凍（リチャージ Jewel）
- ▽ : CI（中粒砂岩層・内側）
- ▽ : Co（中粒砂岩層・外側）
- ▽ : 凍土折れ点
- ↔ : プライン除熱範囲
- ↔ : プライン停止範囲

KEY PLAN



【参考 1 - 5】地中温度分布図（3・4号機東側）

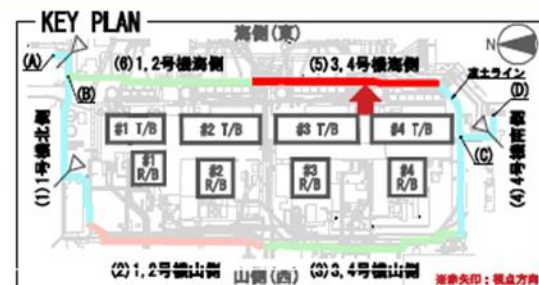
■ 地中温度分布図

(5) 3, 4号機海側（西側：内側から望む）

（温度は7/21 7:00時点のデータ）

凡 例

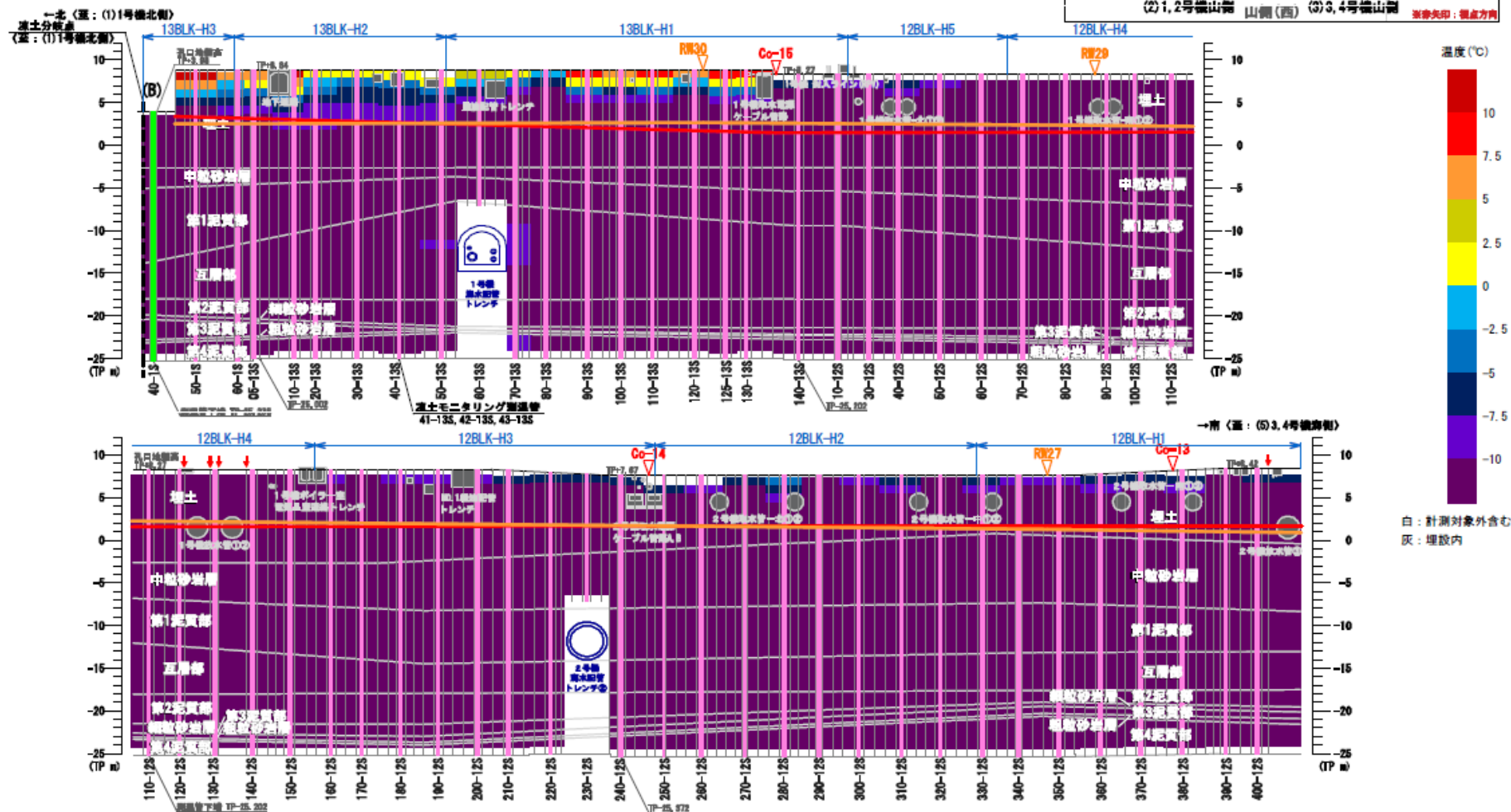
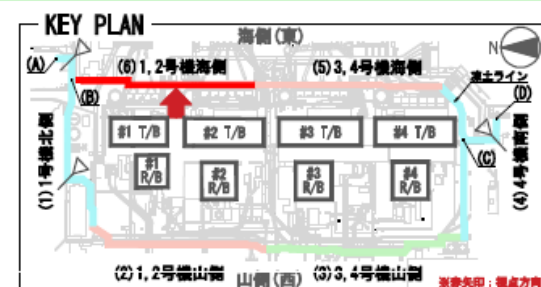
- 測温管（凍土ライン外側）
- 測温管（凍土ライン内側）
- 複列部凍結管
- 凍土壁外側水位
- 凍土壁内側水位
- △ R/R（リチャージ Jewel）
- △ Cl（中粒砂岩層・内側）
- △ Co（中粒砂岩層・外側）
- ▽ 凍土折れ点
- ↔ プライン稼働範囲
- ↔ プライン停止範囲



■ 地中温度分布図

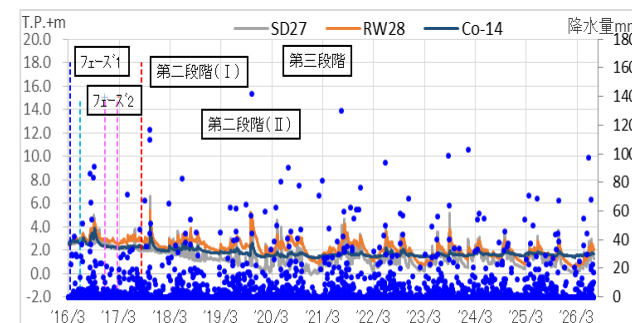
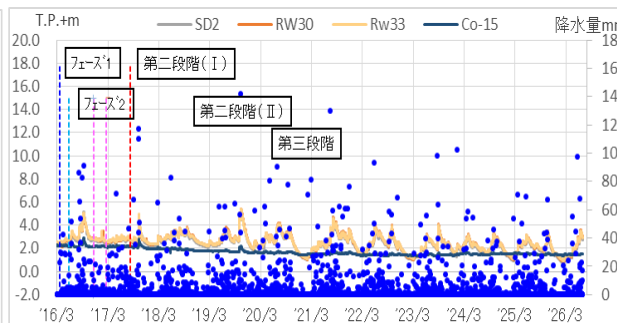
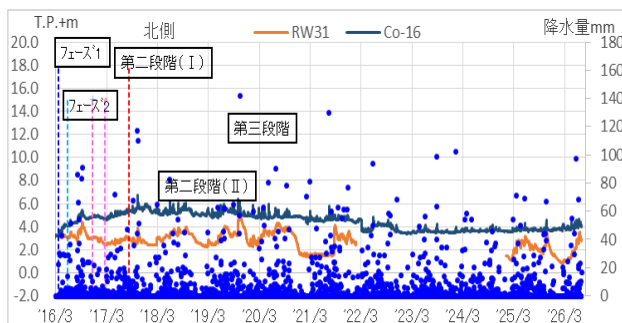
(6) 1, 2号機海側（西側：内側から望む）

（温度は7/21 7:00時点のデータ）

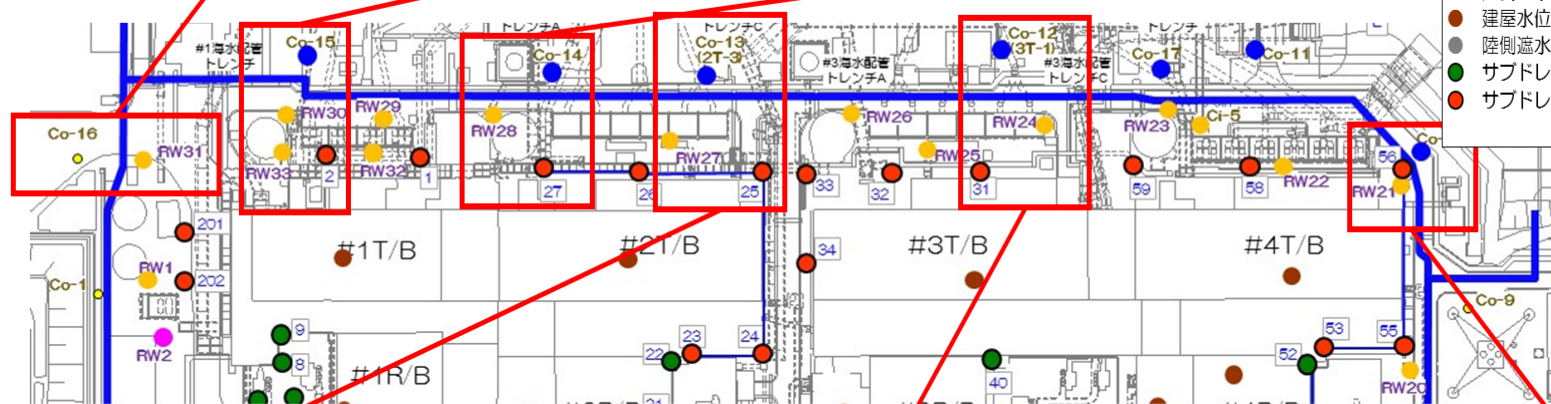


【参考 2】 地下水位・水頭の状況について

【参考2-1】地下水位・水頭状況（中粒砂岩層 海側）

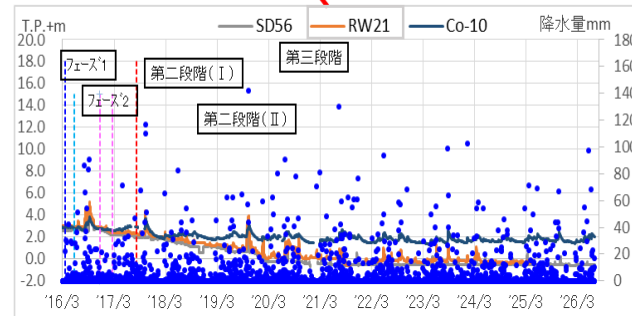
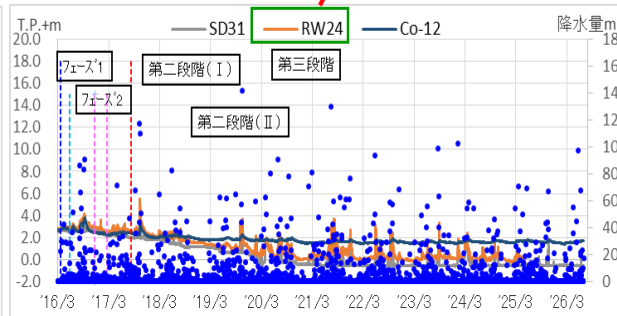
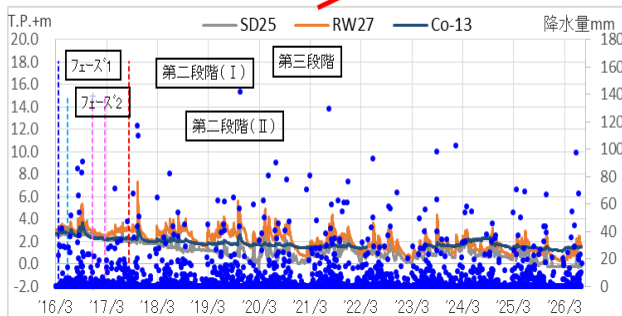


※RW31は、2022/2/2～
2025/1/17期間は、計器故障



- 注水井・観測井（山側）
- 注水井・観測井（海側）
- 陸側遮水壁（海側）海側観測井
- 建屋水位
- 陸側遮水壁（山側）山側水位
- サブドレン（山側）
- サブドレン（海側）

フェーズ1: H28.3/31～
フェーズ2: H28.6/6～
第二段階(I): H28.12/3～
第二段階(II): H29.3/3～
第三段階: H29.8/22～



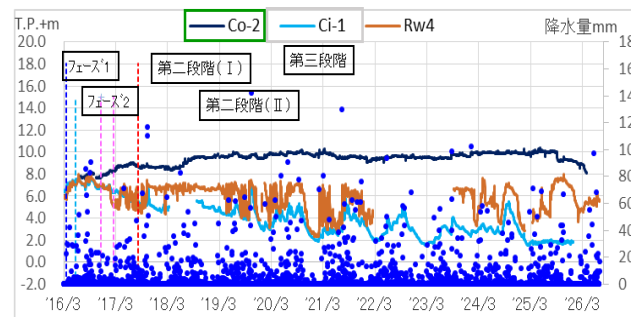
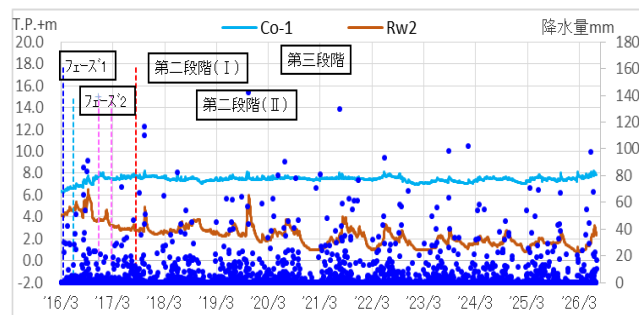
※Co-13は、2022/4/25～2023/6/26の期間は、計器故障

※RW24は、2025/5/14～ 計器故障

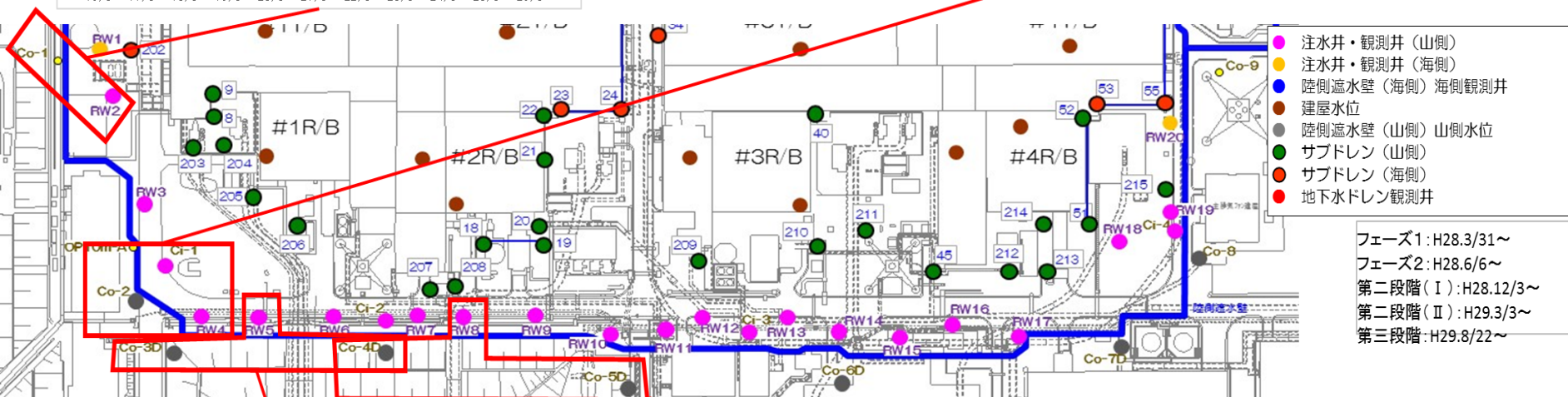
※RW21は、2025/5/14～ 計器故障

データ ; ～2026/7/15

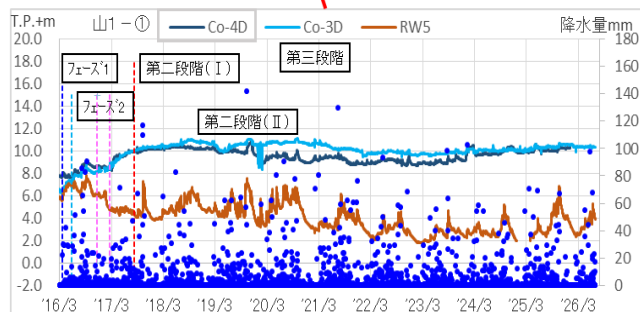
【参考2-2】地下水位・水頭状況（中粒砂岩層 山側①）



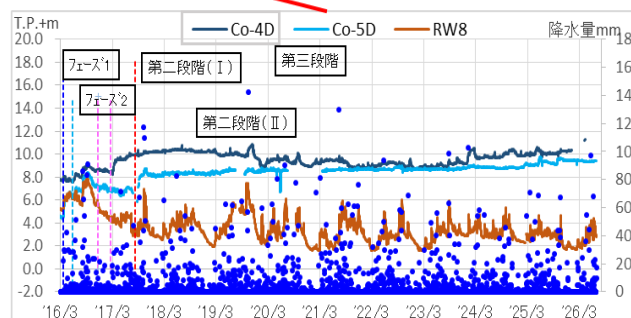
※RW4は、2023/3/29～2023/9/20
の期間は計器故障
2025/2/3～ 水位計設置位置変更
により欠測



フェーズ1: H28.3/31～
フェーズ2: H28.6/6～
第二段階(I): H28.12/3～
第二段階(II): H29.3/3～
第三段階: H29.8/22～



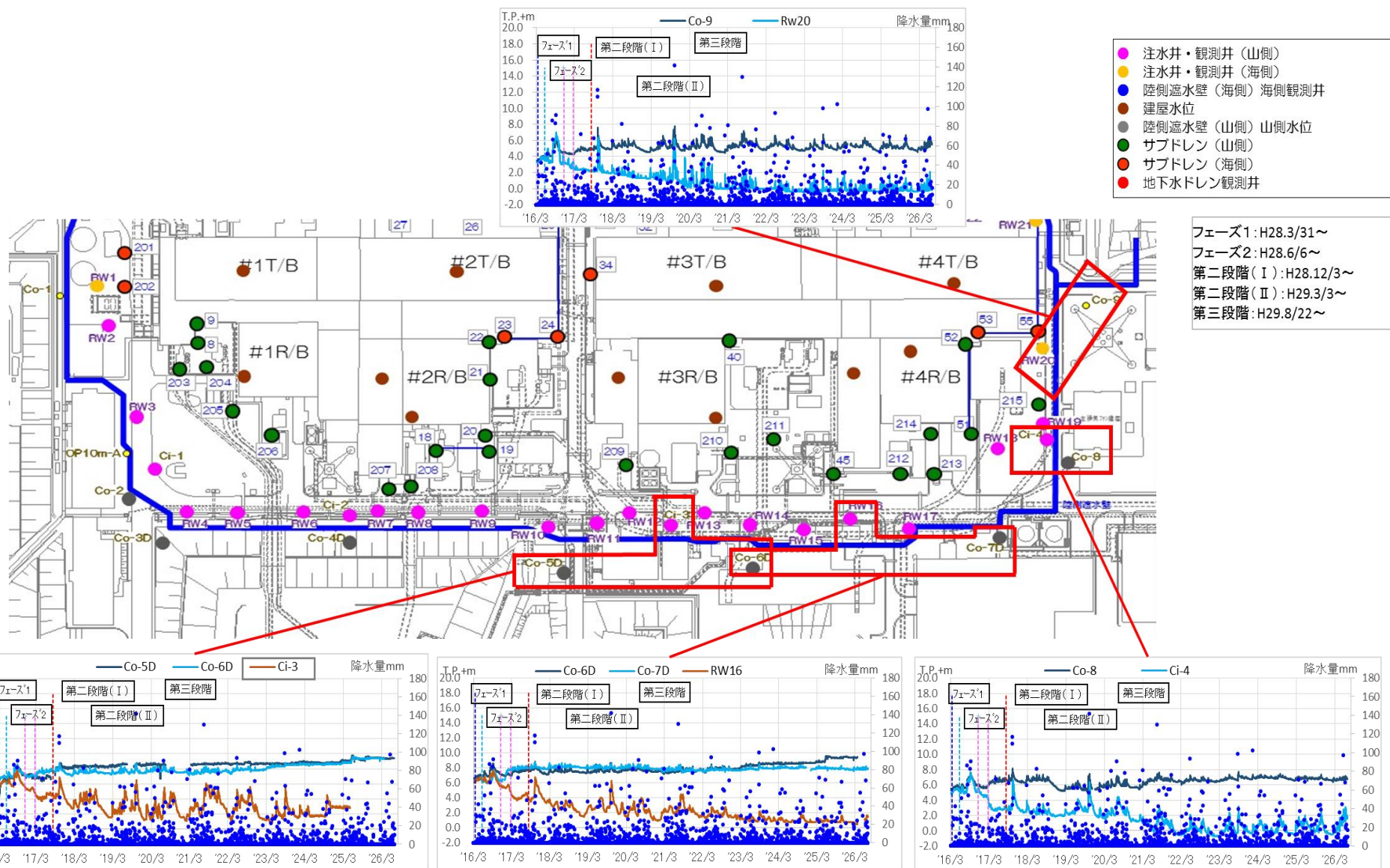
※RW5は、2025/1/4～ 水位計設置位置変更により欠測
Co-4Dは、2026/4/18～ 計器故障



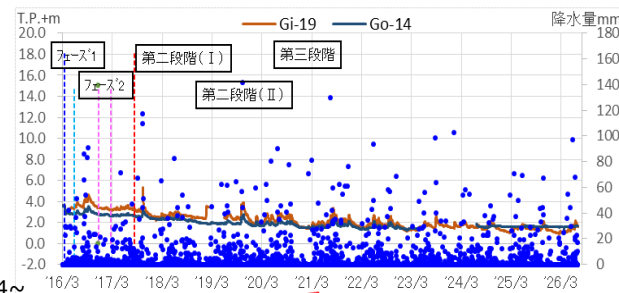
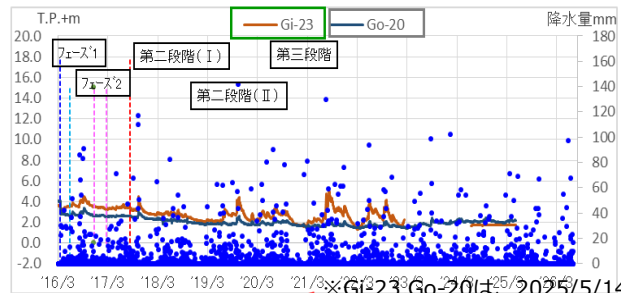
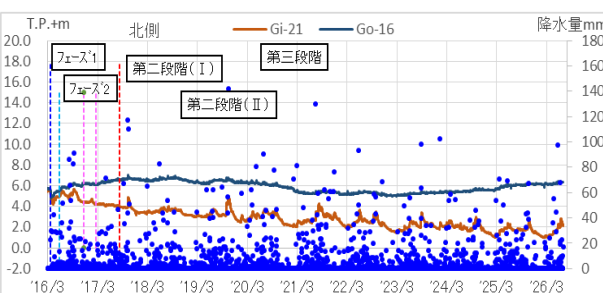
※ Co-4Dは、2026/4/18～ 計器故障

データ ; ～2026/7/15

【参考2-3】地下水位・水頭状況（中粒砂岩層 山側②）



データ ; ~2026/7/15



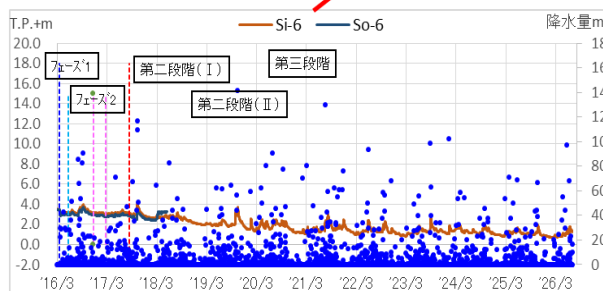
※Gi-23,Go-20は、2025/5/14～
孔内凍結を確認したため、欠測

海側互層、細粒・粗粒砂岩のグルーピングは、非凍結箇所(各号機海水配管トレンチ下部)を除き、各号機に1箇所程度設定

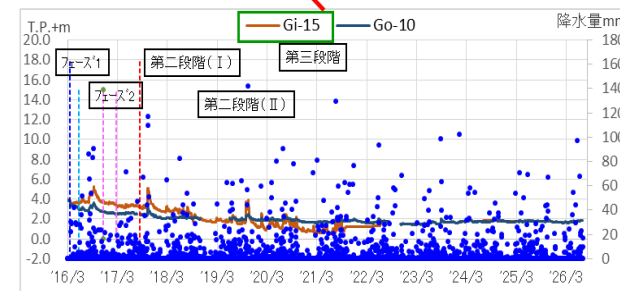
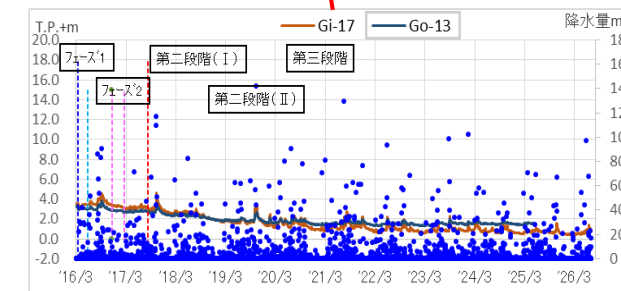
- 互層観測井
- 粗粒・細粒砂岩 観測井



フェーズ1: H28.3/31～
フェーズ2: H28.6/6～
第二段階(I): H28.12/3～
第二段階(II): H29.3/3～
第三段階: H29.8/22～



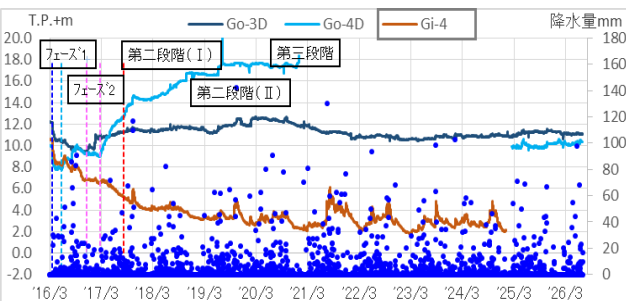
※So-6は、2018/6/1より計器故障



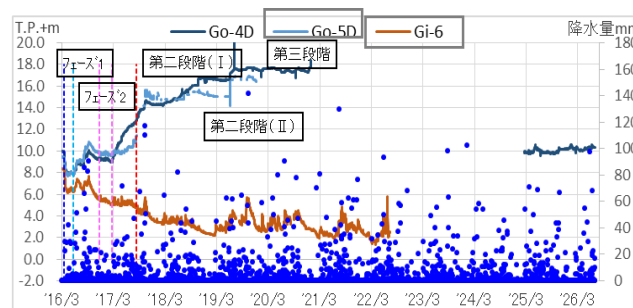
※Gi-15は、2022/7/4～2024/6/25期間は、計器故障
2025/5/14～ 孔内凍結を確認したため、欠測

【参考2-5】地下水位・水頭状況（互層、細粒・粗粒砂岩層水頭 山側）

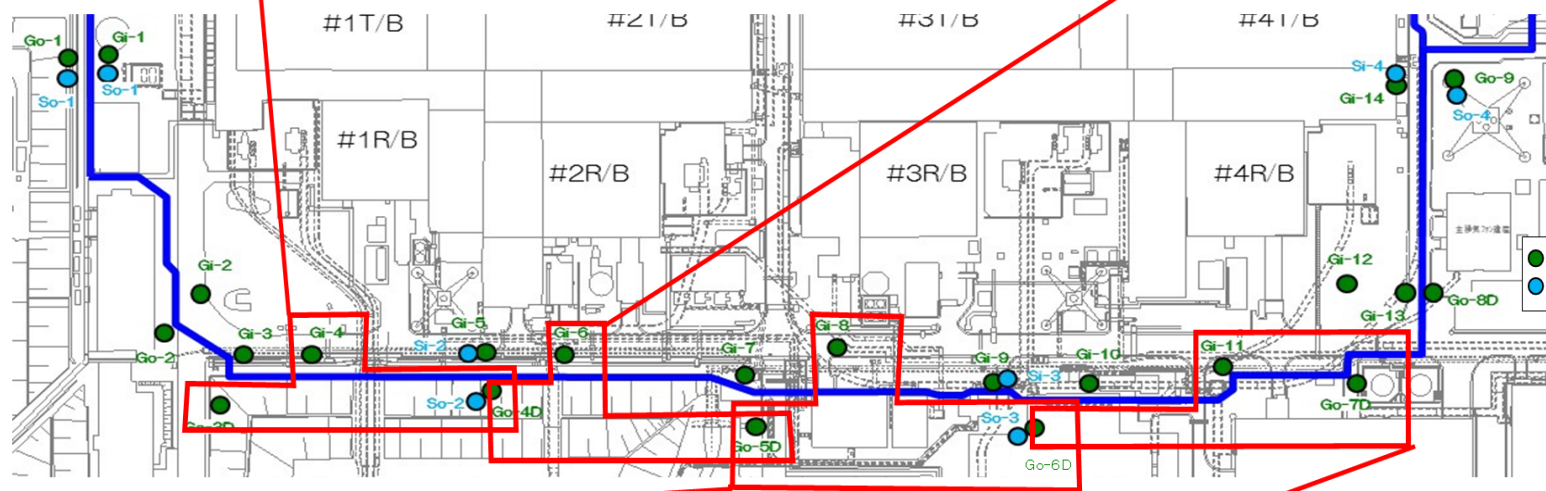
※Go-4Dは、2021/1/11～2025/2/27計器故障



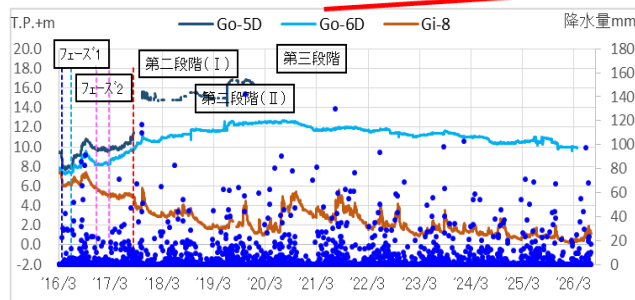
※Go-4Dは、2021/1/11～2025/2/27計器故障



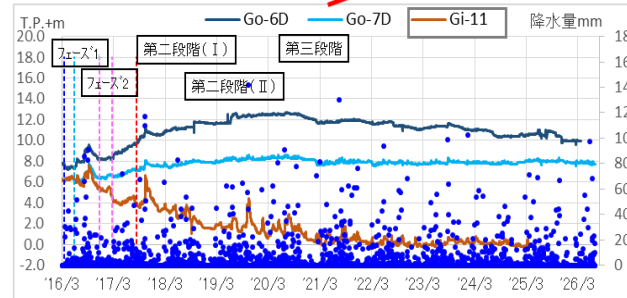
※Gi-6は、2022/7/25より計器故障



フェーズ1: H28.3/31～
フェーズ2: H28.6/6～
第二段階(Ⅰ): H28.12/3～
第二段階(Ⅱ): H29.3/3～
第三段階: H29.8/22～



※Go-5Dは、2019/12/16より計器故障



※Gi-11は、2025/5/14～ 孔内凍結を確認したため欠測

